



サプライチェーンの 識別： 解放される物流

世界的なトラックメーカーが、
RFIDを使用して注文の誤出荷の
ゼロを目指します。

「サプライチェーンの成功を妨げる上位3つの中で、 経営陣の同意の欠如は障壁の1つとして挙げられます。」

AD Global Supply Chain Research社、2022年

規模とスループットの両方で大規模を誇る、世界的なトラックメーカーの部品倉庫と物流センターの面積は80,000平方メートルです。

発送棟は長さ200mで、世界中から年間数十万件の注文を処理しています。注文の間違いや荷物の紛失は、管理コストが高くつきます。

最終顧客の視点から見ると、すべての注文は緊急そのものであり、RFIDを使用することで、顧客が要求したものを正確に受け取ることができます。

課題

注文の処理速度を上げると同時に、注文の紛失や配送に関する問い合わせをいかに減らせるかです。

ソリューション

大規模な物流センターでは、デジタル・ロケーション・トラッカーが装備されていない限り、処理ユニットが簡単に失われる可能性が高まります。ソリューションプロバイダーのMieloo & Alexanderは、物流センター（DC）を研究し、ゾーンとプロセスのデジタルツインを作成しました。パッシブUHF

RFID技術をベースにした天井取り付け型リアルタイム位置特定システムをDC全体に配置することにより、追跡ソフトウェアは、貨物が発送仕分けゾーンに入った瞬間から、車両へ正常に積載されるまで貨物を識別します。

RFIDシステムは、各ゾーンにわたり、各処理ユニットの正確な位置を提供します。顧客は各ゾーンでルールを設定できます。

クライアントは各ゾーンのルールを決めることができ、例えば、処理ユニットが青色のゾーンにあれば、出荷準備完了を意味します。その真の効果は、処理の自動化にあります。RFIDタグが貼り付けられた処理ユニットがコンベアで発送棟へ運ばれると、つづけて目的地の仕向け国に向け、関連する仕分けゾーンに自動的に搬送されます。対象国に向けた輸送トラックが到着すると、フォークリフトのドライバーは、処理ユニットが関連する積載ゾーンへ向かう必要があることを画面上で確認し、最終的にトラックに積載します。システムは、各ゾーンを通して処理ユニットを追跡します。正しい順で各ステージを完了すると、それは成功したプロセスとして記録されます。RFIDベースのシステムは、自動車業界の物流センターにおいて注文の誤出荷をほぼゼロにすることを可能にしています。

結果

- 積載のミスの回避によるOEMペナルティの防止
- 欠品オーダーの検索時間と労力の削減

メリット

- コスト削減
- データ品質の向上
- 顧客満足度の向上
- コンプライアンス



Avery DennisonのRFIDソリューションの詳細は、
rfid.averydennison.comをご覧ください。

